

古今百人一首





萃号



古今百人一首

越前守源慶永謹撰

後白河院

池水千  
みまのさる  
る乃  
たを成り  
帝統

後多野院

我  
新  
隔  
伎  
同  
一  
呂  
七  
子

後醍醐天皇

大正天皇御即位の御事

治海皇太子を古く治まを御事

後陽成院

仁孝天皇御即位の御事

仁孝天皇御即位の御事

後水尾院

明和天皇御即位の御事

明和天皇御即位の御事

靈元院

徳川天皇御即位の御事

徳川天皇御即位の御事

光格天皇

光格天皇御即位の御事

光格天皇御即位の御事

今上天皇

今上天皇御即位の御事

今上天皇御即位の御事



東照宮

立居まじ杖をちかき此老身を

くくによまききといひつさるそと

台徳公

美代乃喜ぶちこりて持り

やまこ迄狼よりたれさるるか

大猷公

さるそと、喜代乃文はる雲小舟

月しむひりしかうを敵ごて

常憲公

いとれさる、謙のちるあつハ

喜のさるえこ神もさる

文照公

くまうえぬこきいりねり影そと

ちまたいふやいすめり他水

成烈公

葎葉に月さること西露ちりて

うつ残さるこつ婦たまらる人



以仁親王

山代乃升多のぼるに時あて

えりて川下はやきりて

宗良親王

君のきめ事の為のいふおしりて

とてて甲斐女所命るるとて

熾仁親王

和乎のうらふしく年はや宜ぬて

きりか別を所能乃毛ころ哉

本願寺の法光澤

美代城よりふ蕨姑村の山まはり

は程ふに風を何やうとて

豊后秀吉公

ふ果をもしきりて入たるをいふ乃

まはりてたきりて折にらきりて

夢司政通云

夏朝乃吉雲の山乃海さく良

きりてていふやとてていふて



内書法存公

美代とくぬ多し回きも乃

なびくすくや庭のくせ行

内書忠撫云

去る時の傍と糸のすくくも

治まる回きも志くくも

烏丸光廣卿

あえくく常盤のうけにひりきて

君のあ代まを宿るく色竹

冷泉為村卿

吹きあむ弦をさくふ風も

すほのあ末乃花のちりも

冷泉為久卿

高帆ややく風のそよぶゆ

よるくくくく和乎まも松

冷泉為理卿

那波に霞くくく草の屋の

さくくくまきかま西も







尾張斎莊御

街を渡るやんきく門浮く海り

く海るをぬく成 三保松原

水戸斎昭御

梓うきるとししと大きき乃

るより宮居成去つ小我才そ

千種方功御

きせ郷きくうききてこそ 吟ふも免

ふ果きゆつ程 白昔久乃花

源三位頼政御

庭から西きまうふのぬふゆふ立の

そりさうきるくすめり月うふ

橋本実藤切長

まきぬては成下りてあさ青柳の

あくうきくうくひすのふく

後小治方長御

むきふゆれきりてあつぬきく

友と 岩同まき 水乃 月うき



平忠盛朝臣

有明の月とらうとらふ浦凡す

彼まらうとらふとらふとらふとらふ

平経正朝臣

子早子神小祈りいもうとらふや

しうとらふとらふとらふとらふ

武田晴佐朝臣

立あふ甲斐とらふとらふ山櫻

まはらふとらふとらふとらふとらふ

佐々成政朝臣

何事も不利とらふとらふとらふ甲斐

志とらふや雪れ白とらふとらふ

井伊直政朝臣

立あふとらふとらふとらふとらふ

まのよらひと君哉給ぬ

原定信朝臣

露とらふとらふとらふとらふとらふ

とらふ草れ野邊のうらひ話



清池院

青糸のそとをふ山此おきさる

またあしきうのうむりかかれて

楠木正行の伝

梓うひあまのしをきふよる

うに教うへる名をそとむる

野宮定祥の伝

卯たのうきすの雪まをりた

かきやこもふとらうくき書

三條西季知の伝

波遠くこれあつ月の中

まのの教みる天乃ま立

飛鳥井那之の伝

神やまのあつりつあふ

きかろあまをう移てつむとハ

三條実美の伝

海しうぬのま別まのをりむと

約うちいりつねのきま



幸物宣長

あはれはのやまへん人こころ

いさむしりふふ山左之丞花

鳥居猪高

我君の命にうさ玉乃緒き

るにいとひむよりうの道

伊波仁母

凡そる赤の枯葉茂てまうふ

摘りこむるさうふ乃いせ

武藤 某

一葉ちり柳乃いこれきえまよる

こけさく細ふあうの三日月

荻生 雙松

我門乃ふもと柳枝を待て

るう昔日けう男二鳥乃素久

澤井 若木

玉川やいそひ水浅むすひてし

も庭新るに山さむのさか



前田友蔭

大船のゆくさしあきし和田の原

きよ紀月おろし霞あらしし

香川宗樹

天つ下ぬき身袖のふるさたり

大内山まご縁のしづく縁し

井上文雄

まろし雪成りしとて明らむ

波回し白文天乃橋きと

讀人しん

作きおふ妻のゆるれや雲の上乃

美くくこれおろし三日去りし

橋尚平

幸もるく只大やふまむ月城

おのろし海し人乃見えり

岡部素平

おろしとて立野の夕ほり

きよぬきし冬くきよふ

渥美友宗

文やま月きこうれ 鏡か

志のくはうはういあく乃杖

長友陸奥

ゆるゆるのたよむつ祥く馬のまた

えききあ乃まきるへに市利

蓮月尼

宿りきぬ人のほろけ残るきよま

臆月あつたけり 福くか

釋涌蓮

らまじ又切く起てつあまや

高りうれく交方明去月

釋覺巖

定めあま雲の才あし村時ぬ

まきすくくた 美徳の山位

釋祐可

崎くまき老茂もちる乃まきと鏡

くもぬぬ河代年 七十年此書



釋東溟

黒くも 駒と月毛の成り

下 紫もふ 雪の岡こえ

釋寺照

老うもいふむくくはくもく

くくりに似きぬ子代乃初ま

釋普寧

浮きくはくくも友もかれまや

くくも 序の山保く交替

釋松堂

川しまの芦原ふひさき立おくれ

志のひまになく 及乃友鶴

讀人しん

さういふまは月しきくくやま

山むくくくをまふ交膏なま

讀人不知

山乃さきくくくくくくくく

あつのお長き五月雨乃比



毒木敬秋

花紅紫いろる紀浦のこぼるる  
るみのよき月ハまきす

婉尼

川上の根芥はむ子もこころ  
えかのこころの氣うけすころ

橋曙覺

こころの野海は遠きをわけて  
やうらなみのり秋乃むき

浅井政昭

春柳乃木の花はまき  
いけのこころはわきこころ

有笑方久

ぬの目す野田の小木の枝は  
きこころハまき乃氣とく

甲根師質

夏はこころのよき雪こころ  
いそより月まきころの涼



平本良戒

たゞのみちをよるもいとくさ

く急の匂ひもいとくさ

本折豊頼

梅の寒ふ匂ふ夕日此落多ふ哉

くもるくおらして五月ぬとさ

湯田山守

兼花りの敷架の磯に松風や

こゝにふとされ声よとふこ

橋技 直

月影ハ高砂此霧の深き下は

ふはをみり山をくきん

成崎屋筑

つらなるくひの雲さうをそし

黒髪山とつらり得勢才ハ

牧田毅明

引むすふ尾花う神のたまさうり

月もるを移の野四乃猿人



加茂季博

桜をみ笑そめよと志す雲は  
いさよとくくる三芳野の山

昌磨

磯城の及ふそと待と候う身は  
くわに友を由鶴をくりるを

高井八穂

一長切く霞乃衣とて共り  
きりしゆらなぐるまふか

河井孝廉

谷新きまの白雲も清なり  
まやらし山より立霞うね

安田新法

かきくふふ代ふれまことみふか  
こく色赤にのりしきる雪

高野直

あひしつ風の落葉のまきとて  
ふり時ふに袖ぬりしき



室 惠 清

昔のりもいりこほのまきり  
みくはるさうくもるをきけり

是代弘洲

夢の中ハ言山吹の色にきり

実るまことのこりてまやしつ

搞保己一

松の火乃あつ風ふさるる松根山  
あけり筆をたさるる所

久保田齊芳

雲小舟こほさる山に風吹ぬ

松原にささる雪農志しは

幸山廣居

長代寒之芦 月之渡りは速は乃ささ

月之渡りは速は乃ささ

琉球浦添村司朝袁

冬ハ早うけし乃床よりむし

霜並野邊去深草農ささ



岡部吉徳

花平通不めくつて様様く宛

きてーころれうあうまーやハ

平田吉胤

今ーまー川くくあまみちのこれ

ころころあまあまーころ南



